

第1回 (仮称) さいたま自転車総合利用計画検討懇話会 議事要旨

日時：平成26年8月18日(月) 10:00~12:00

場所：さいたま市中央区役所 3階 大会議室

【自転車総合利用計画の構成(案) および 検討懇話会の進め方について】

委員 様々な都市の自転車計画をお手伝いしているが、さいたま市の構成を見てとても良いと感じた。その中で気づいた点を述べる。

1番目は、大綱が総論にあたるものと思うが、総論で大事なのは、さいたま市が自転車都市としてどのように打ち出すか、という点である。例えば「世界レベルの自転車都市」と打ち出している海外の都市もあり、斬新な施策を引き出すことにつながっている。

2番目としては自転車の明確な位置づけであり、この点はしっかり大綱の中で記載していただきたい。それを基にして施策につなげると良いだろう。

3番目は目標だが、定量的で具体的な目標については、施策のレベルを上げるようなやや挑戦的な設定をしていただきたい。

4番目として、「はしる・とめる・まもる・たのしむ」という視点も重要だが、通勤のために使う、買い物のために使う、リフレッシュのために使うというような場面ごと、目的ごとに施策がマトリクスで整理されるとわかりやすくなると思う。

事務局 自転車の特性として、利用距離多くは3km程度と思われるが、本市では5km程度まで伸ばしたいと考えている。また、本市で取り組んでいる様々な自転車施策について体系的にまとめ、自転車の位置づけをはっきりしたうえで進めていきたいと考えている。「はしる・とめる・まもる・たのしむ」という4つの視点から施策を進める点については、委員ご指摘のとおり、自転車利用の目的別という視点からも整理できるよう、わかりやすくまとめたいと考えている。

【計画策定の趣旨、自転車利用の現状と課題について】

委員 計画策定の背景の中で、「自動車に過度に依存しない交通体系の実現を目指す」とあるが、自転車利用促進の観点から考えると、自動車からの代替だけではなく、自転車が本来持っている魅力を前面に出して、自転車利用を訴えたほうが良いのではないか。

また、経済的優位性について、自転車にかかる費用として購入コストしか示されていないが、駐輪料金であったりメンテナンス費用であったり、まだ必要な金額が示されていないという点が気になった。

健康面は、まちづくりを考えるうえで重要かと思う。海外ではこれがメインになっているところもある。体重減少だけでなく、心の病などに対する有効性についても盛り込んでいくと良いかと思う。

事務局 位置づけについては自動車からの転換以外の部分を、本市自体の魅力向上につながるように取りまとめたいと思う。

経済面に関しては、家計調査が出典であるが、データ区分によってメンテナンスなどは値が小さく、「その他」の項目に入ってしまったかもしれないので、その点を工夫する。

健康面については、サンプルとして体重減少を記載しているが、医療費の削減などの文献も盛り込んだ形で資料を作成していく。

最近では自転車の保険の CM などよく見るようになってきているので、買った後の整備も含めた形で見えるように出していきたい。

座長 今外出していない移動に対しても、それらが創出されるということも考えられる。ただ目標としての言葉自体は、事務局が示したもので問題がないと思うので、目標と将来像のところ、転換だけでない自転車利用も記載すればよいかと思う。

心の病というところで、委員の方からも文献やデータをご存知であればご紹介いただきたい。

委員 経済的優位性について、記載の支出と本当に使ってほしい支出と異なるのではないかと気がなった。保険も今では安くなってきており、両親と子供の3人分入ってもせいぜい3,000円なので、そうした仮定のモデルを示してもよいと思う。保険については、「まもる」という柱の点で強調していただければと思う。

交通安全教室について、回数を重ねてしてきているようだが、特に行動範囲が広がる中学生・高校生について、より多く実施していけるような機会があると良い。

座長 今後の目標や施策のところ、保険などの記載を盛り込んでいただきたい。

事務局 モデル的な示し方について、どのように費用がかかるかを追記したい。また4つの柱で記載するというご説明しているが、「まもる」が前提の上で施策が実施されることになると考えており、事務局としても「まもる」が重要だとの認識である。

交通安全教室の見せ方については、工夫していきたい。スクエアドストレイトについては、今年度から実施しており、さいたま市立のすべての中学・高校において、

教育委員会が所管となり実施する予定である。

委員 なるほど、という資料であり、さいたま市を再認識した。自転車事故の発生状況に加えていただきたいのは、年齢別にどの割合の事故なのか、どの原因なのかについての記載があると検討がしやすいかと思う。

子供もそうだが、高齢者の事故が多いと思われるので、警察としては高齢者をどのような形で教育・対策していくのかがポイントだと考えている。

損害賠償の件で、昨年には 9,500 万円の損害賠償の事例もあった。家族をまもる、被害者をまもるという意味では、保険加入の有無かどうかがとても重要である。今後の展開について、条例等のルールを検討することになっているが、計画策定と並行して進める必要があると思う。

事務局のとおり、「まもる」があって「たのしむ」があるのだと思う。

事務局 資料の充実化については、データを適宜追加していくが、場合によっては委員の皆様からのご提供も含めてご協力をお願いすることも考えている。

今後の条例、ルール作りに関しては、ご意見も踏まえて事務局で再度検討したい。

座長 「まもる」に関しては「ルールをまもる」ということで記載があったが、「家族をまもる」ということも、とても良い視点かと思う。

事務局 「まもる」ということを考えたときには、走る際にも停める際にも「まもる」は必要になってくる。「まもる」が下支えになっているイメージであるので、まとめ方についてはいろいろご意見いただきながら工夫していきたい。

委員 長年自転車を愛用しているが、ここ最近は自転車の環境が整ってきたと感じている。

市民の自転車に対する認識の低さとして、事故が多い、あるいは買い物にしか使わないといったイメージがある。インターネット意識調査の結果を見ると、「危険」「疲れる」といった意見があるが、ハード整備がしっかりなされればこうした意見は減ると思う。例えば、休日は裏道に自動車を通さないなどの施策も考えられる。

街中の商店街が、自転車カフェを作り、そこで自転車利用者が談義をするといった環境づくりをすることも考えられる。幼稚園や保育園の送迎の保護者たちが立ち寄っている場面を見ることがあるが、そうしたところでルールを掲示することも重要ではないか。

また、駅等にシャワーを浴びてから通勤・通学ができる、サイクルステーションのようなものがあると良いと感じていた。

保険に関しても、安い商品を市で斡旋したり、団体保険を検討したりするなど、

保険のことも重要と思う。

どこかモデル地区を作って、実験をするのも良いかもしれないと感じている。

事務局 今後計画を作っていく中で、具体的な施策については来年度重点的に検討していく。現在、庁内でも既存施策と新規施策を取りまとめている。また、市民の皆様の意見を聞いたうえで、アクションプランを取りまとめていきたい。

座長 パブリックコメントでも、具体の施策の意見を収集していくということか。

事務局 素案について、市民の意見を聞く機会はあまりないので、大綱の素案だけでなく、具体の施策についても意見収集をしたいと考えている。

委員 10区で市長説明会（タウンミーティング）を実施するようなので、その意見も含めて実施していただきたい。

委員 自身の取組みとして、ルール・マナーの啓発活動をしているが、交通教育については質と量が重要と感じている。量が絶対的に足りていないとは感じているが、質の充実が自転車先進都市になるためには重要と考える。今の施策は自転車利用者ばかり向いている気がするが、自動車ドライバーが自転車は車道を走ることを理解していない部分もある。乗用車優先という意識が日本にはあるが、ヨーロッパでは歩行者が最優先で、二輪車、公共交通、荷捌きと続き、自動車のヒエラルキーが一番下である。

また、「自転車は歩行者の延長」という意識も日本の特徴と思うので、そうした部分を改善するソフトウェアを課題の部分に盛り込んでいただきたい。

事務局 自転車と歩行者という視点は意識しているが、自転車と自動車という視点についても、自動車ドライバーへの啓発という意味で重要と感じている。

自転車は歩行者なのか車なのか、あいまいな部分があったが、本市で策定した自転車ネットワーク整備計画の中でも、基本的には自転車の車道通行を原則とし、歩行者の安全性を高めるとともに、自動車ドライバーへの啓発を進めていくという視点に立っている。

委員 メリットの整理の仕方については、インターネット市民意識調査で市民が何を重視しているかという順で並べてはどうか。環境などは少し後に出すべきであろう。

利用率や事故率の高さを示すことも大事だが、事故発生個所と発生原因を徹底的に把握したうえで、市民に訴えていくことが重要である。

交通安全教室参加者への駐輪場利用の際のインセンティブ付与や、公共交通と自転車の連携を考えることも重要である。

また、自転車を放置する人の多くは、歩いて来ることができるという調査結果もある。近隣の駅には歩いて行っていただくなど、需給調整をすることでスリム化さ

れた駐輪場運営も可能になると思う。

委員 資料では、高齢者の利用や買い物利用が多いという内容だが、私の思う施策としては子育て世代が子供と一緒にサイクリングするイメージである。子供や高齢者へはある程度対策ができていますが、30～40歳代にフォーカスできるようにしたい。

実は、さいたま市は子供の数があまり減っていない。ピークよりは少なく、出生数は減っているが、転入者が多いため、ある程度の人数を維持しており、子育て世代は多いと考える。

委員 コミュニティサイクルで、自宅と駅の間で一番使われているのに驚いた。さいたま市には駅から少し離れた観光地が多くあるので、市外にもPRできれば良いと思う。

自転車を大切に使う、自転車の価値を上げるという取り組みをしているところで、ロードバイク利用者は独自のカスタムをしている。自転車専門店が多く立地しているということもあり、ぜひ進めていただきたいと思う。

また、子育て世代の保護者は子供を乗せての走行に不慣れであると思われるので、そうした層への教育は重要であると思う。

事務局 コミュニティサイクルに関しては、定期利用の料金を定めており、そちらで利用される方が非常に多い。その場合、自宅から駅までの利用が多い。最長5日間、自宅に持って帰ってもよい（ポートに返却しなくてもよい）ことになっている。

委員 資料の中で、東日本大震災を機に自転車販売台数が増えたとの説明があるが、もともと、3月は自転車の販売台数が増える時期であるということは考慮していただきたい。

委員 自転車の広報キャンペーンをしていく中で、自転車の「たのしむ」と「まもる」のバランスが重要と感じている。花が咲いているからこのルートを走る、といったように具体的な楽しみを知っていただくことが有効だと思う。法律改正で左側通行が厳格化されたが、あまり守られていない。市と県と一緒に啓発していくようにしていきたい。

座長 自転車利用については、天候の影響も受けやすい。そのあたりも検討していただけるとありがたい。

本日はたくさんのご意見をいただいたので、事務局で整理し、修正した内容を次回にお見せいただけるようお願いしたい。

以上